

阿部彩『子供の貧困 日本の不公平を考える』岩波新書 2008 年

第一章 貧困世帯に育つということ

疑問点・論点

「子ども期の貧困は、子どもが成長した後にも継続して影響を及ぼしている。」(24 頁)と筆者は書いており、子どもが貧困状態で育つことは様々な不利を背負うことになるとしている。なぜこのような連鎖が生まれてしまうのか。この連鎖を断ち切るためにはどうすればいいか。

疑問点 1 : なぜこのような連鎖が生まれてしまうのか

A 班

低所得で学校に行けず教育の機会が失われているので、就職できる職業が限られてしまうから

B 班

親の低所得で教育機会が限られ仕事選びの幅が狭まりつける職が限られて、低所得が子供の代にも受け継がれてしまう

C 班

低所得の家庭の子供は低学歴になりがちで、就職しても低所得の職にしかつせず、貧困の連鎖が生まれてしまう

D 班

親の低所得により十分に学ぶことが出来ず、それが就職における選択の幅を狭めてしまう

疑問点 2 : この連鎖を断ち切るためにはどうすればいいか

A 班

- ①教育制度の見直し
- ②奨学金の無利子の導入の割合を増やす
- ③ある所得以下の人に対して就学援助を増やす

B 班

基本的な教育を受ける機会を平等に設ける。具体的な例として、国が補助を行い幼児教育と高等教育を義務化すべきだ。

C 班

- ①低所得の家庭は一般の家庭の収入と同額になるよう、今よりも補助金を増やす。
- ②機会の平等を達成するために塾や習い事などを無償もしくは安くできるようにし、低所得の家の子供も色々なことが経験できるようにする

D 班

親の低所得によって子供の貧困が生まれるので、親の所得を上げることによって子供の生活基盤を作る。